

作成日 2011/10/21

改訂日 2021/06/22

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	クリーンコート03
供給者の会社名称	サンライズ株式会社
住所	大阪府中央区道修町1-7-1
担当部門	大阪研究所
電話番号	06-6202-7700
FAX番号	06-6202-7900
電子メールアドレス	sunrise-ho@sunrise-bg.co.jp
緊急連絡電話番号	06-6202-7700
推奨用途	外壁目地部シーラントの汚れ(塵・埃付着) 防止用 エアゾール

2. 危険有害性の要約
化学品のGHS分類

物理化学的危険性	エアゾール 区分1
健康有害性	急性毒性(吸入:蒸気) 区分4 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分2A 生殖毒性 区分2 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(中枢神経系 全身毒性) 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(麻酔作用 気道刺激性) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(血液系) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(肝臓 呼吸器 脾臓)

上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHSラベル要素

絵表示

注意喚起語
危険有害性情報

危険
H222 極めて可燃性の高いエアゾール
H229 高压容器:熱すると破裂のおそれ
H319 強い眼刺激
H332 吸入すると有害
H335 呼吸器への刺激のおそれ
H336 眠気又はめまいのおそれ
H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
H370 全身毒性、中枢神経系の障害
H372 長期にわたる、又は反復ばく露による血液系の障害
H373 長期にわたる、又は反復ばく露による肝臓、呼吸器、脾臓の障害のおそれ

注意書き
安全対策

使用前に取扱説明書入手すること。(P201)
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
(P202)
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)
裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。(P211)
使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。(P251)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。(P260)

	<p>粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。(P261)</p> <p>取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)</p> <p>取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)</p> <p>この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)</p> <p>屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。(P271)</p> <p>保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)</p>
応急措置	<p>吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)</p> <p>眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)</p> <p>ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。(P308+P311)</p> <p>ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。(P308+P313)</p> <p>気分が悪いときは医師に連絡すること。(P312)</p> <p>気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。(P314)</p> <p>特別な処置が必要である。(P321)</p> <p>眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313)</p>
保管	<p>換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)</p> <p>施錠して保管すること。(P405)</p> <p>日光から遮断し、50℃以上の温度にばく露しないこと。(P410+P412)</p>
廃棄	<p>内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)</p>

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

化学名又は一般名

混合物

コーティング剤

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
プロピルアルコール	20-30%	CH ₃ CH(OH)CH ₃	(2)-207	既存	67-63-0
酢酸プロピル	1-10%	CH ₃ COOCH ₂ CH ₂ CH ₃	(2)-727	既存	109-60-4
すず及びその化合物	5%未満	-	非開示	非開示	非開示
ジメチルエーテル	50-60%	CH ₃ OCH ₃	(2)-360	既存	115-10-6

4. 応急措置

吸入した場合

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。

眼に入った場合

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。

飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 飲み込んだ場合、気分が悪いときは、医師に連絡すること。 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。
5. 火災時の措置 適切な消火剤	周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。 粉じんが発生している時は乾燥砂を用いる。 棒状水。 燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。 消火作業は、風上から行う。 周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 関係者以外は安全な場所に退去させる。 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を着用する。
使ってはならない消火剤 火災時の特有の危険有害性 特有の消火方法	
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	
6. 漏出時の措置 人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。 多量の場合、人を安全な場所に退避させる。 必要に応じた換気を確保する。 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。 少量の場合、吸着剤(土・砂・ウエスなど)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾などでよく拭き取る。大量の水で洗い流す。 多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラムなどに回収する。 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。 床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。 漏出物の上をむやみに歩かない。
環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法 及び機材	
二次災害の防止策	
7. 取扱い及び保管上の注意 取扱い	技術的対策
	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。 必要に応じて、取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
	安全取扱注意事項
	使用後を含め、穴をあけたり燃したりしないこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
保管	接触回避 安全な保管条件
	『10. 安定性及び反応性』を参照。 『10. 安定性及び反応性』を参照。 日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。 日光から遮断すること。 施錠して保管すること。 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
8. ばく露防止及び保護措置 設備対策	蒸気、ヒューム、ミストまたは粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。 必要に応じて、取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
保護具	呼吸用保護具
	機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。 必要に応じて、適切な呼吸器用保護具を着用すること。

手の保護具
 眼、顔面の保護具
 皮膚及び身体の保護具

保護手袋を着用すること。
 保護眼鏡、保護面を着用すること。
 保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	エアゾール
形状	液体
色	無色透明
臭い	有機溶剤臭
融点／凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限 下限 界／可燃限界	データなし
	上限
引火点	データなし
自然発火点	11℃（最低引火点採用）
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	水に不溶、有機溶剤に可溶
n-オクタノール／水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	情報なし
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	通常の使用では問題ない。
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	燃烧時にNO _x 、CO _x 、SO _x が発生する可能性がある。

11. 有害性情報

急性毒性	経口	急性毒性推定値より、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
	経皮	急性毒性推定値より、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
	吸入	(気体) GHS定義による気体ではない。 (蒸気) 急性毒性推定値より、区分4とした。 (粉じん・ミスト) 急性毒性推定値より、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
皮膚腐食性／皮膚刺激性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性		眼区分2の成分合計より、区分2Aとした。
呼吸器感受性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
皮膚感受性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。

生殖細胞変異原性	<p>毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。</p>
発がん性	<p>毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。</p>
生殖毒性	<p>毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。 (生殖毒性) 区分2の成分値より、区分2とした。</p>
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	<p>(生殖毒性・授乳影響) データ不足のため分類できない。 区分1(全身毒性)の成分値より、区分1(全身毒性)とした。 区分1(中枢神経系)の成分値より、区分1(中枢神経系)とした。 区分3(気道刺激性)の成分合計より、区分3(気道刺激性)とした。</p>
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	<p>区分3(麻酔作用)の成分合計より、区分3(麻酔作用)とした。 区分1(血液系)の成分値より、区分1(血液系)とした。 区分2(肝臓)の成分値より、区分2(肝臓)とした。 区分2(呼吸器)の成分値より、区分2(呼吸器)とした。 区分2(脾臓)の成分値より、区分2(脾臓)とした。 動粘性率が不明のため、分類できないとした。</p>
誤えん有害性	
12. 環境影響情報	
水生環境有害性 短期(急性)	<p>$(\text{毒性乗率} \times 100 \times \text{区分1}) + (10 \times \text{区分2}) + \text{区分3の成分合計}$より、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。</p>
水生環境有害性 長期(慢性)	<p>$(\text{毒性乗率} \times 100 \times \text{区分1}) + (10 \times \text{区分2}) + \text{区分3の成分合計}$より、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。</p>
生態毒性 残留性・分解性 生体蓄積性 土壤中の移動性 オゾン層への有害性	<p>データなし データなし データなし データなし データ不足のため分類できない。</p>
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	<p>廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。</p>
汚染容器及び包装	<p>内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。 空容器類を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後に産業廃棄物として処理または回収にまわす。()に管理型・安定型の区分を示す。 外箱、紙管など紙製容器・包装:回収又は紙くずとして処理(単独で管理型産業廃棄物、付着成分がある場合も管理型産業廃棄物)。 金属缶、金属ドラム、金属チューブ類:金属くずとして処理(単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う)。 ガラス容器:ガラスくずとして処理(単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う)。</p>

プラスチック製のボトル、チューブ、袋など：廃プラスチックとして処理（単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う）。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

焼却に際しては引火性物質を含むので注意して行う。

14. 輸送上の注意 国際規制

海上規制情報	IMOの規定に従う。
UN No.	1950
Proper Shipping Name	エアゾール
Class	2.1
Packing Group	-
Marine Pollutant	Not applicable
Liquid Substance Transported in Bulk According to MARPOL 73/78, Annex II, the IBC Code	Not applicable

国内規制

航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.	1950
Proper Shipping Name	エアゾール
Class	2.1
Packing Group	-
陸上規制	非該当
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号	1950
品名	エアゾール
クラス	2.1
容器等級	-
海洋汚染物質	非該当
MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当

緊急時応急措置指針番号

航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	1950
品名	エアゾール
クラス	2.1
等級	-
緊急時応急措置指針番号	126

15. 適用法令 労働安全衛生法

第2種有機溶剤等（施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号）
作業環境評価基準（法第65条の2第1項）
名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9）
危険物・引火性の物（施行令別表第1第4号）
危険物・可燃性のガス（施行令別表第1第5号）
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9）

すず及びその化合物（政令番号：322）（5%未満）
プロピルアルコール（政令番号：494）（20%-30%）
酢酸プロピル（政令番号：182）（1%-10%）

毒物及び劇物取締法
 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)
 消防法

非該当
 非該当
 第4類 引火性液体 第一石油類(非水溶性)

16. その他の情報

連絡先
 参考文献

『1. 化学品及び会社情報』に記載。
 JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学物質等の分類方法

経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス(令和元年改訂版)

JIS Z 7253:2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達-ラベル,作業場内の表示及び安全データシート (SDS)

日本ケミカルデータベース(株)SDS作成システム「ezSDS」により作成。

その他

危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。法改正や製品の改良によりSDSを改訂する場合がありますので、作成・改訂日が2年以上たっている場合は最新版であるかどうかご確認下さい。

免責条項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしているが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではない。

製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失を、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負わない。

当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品がその他の製品成分として使用される場合は、当該シートに記載されないことがある。